

京都府少子化対策審議会・京都府子育て支援審議会 開催結果
(平成28年度 第2回)

日 時 平成28年7月26日(火曜日) 午後1時から午後3時まで

場 所 京都ガーデンパレス

出席者 大江委員、岡崎委員、鈴木委員、真山委員、田中雅道委員、櫛田委員、山本委員、
禹委員、田村委員、諏訪委員、津田委員、栗田委員、伊豆田委員、天野委員、
岡山委員、奈良部委員、藤本美子委員、北川委員、村上委員、宮村委員、北村委員、
金井委員、中西委員、山口委員

議事内容

1. 少子化対策基本計画の検討について

◇結婚の支援

- ・中学生・高校生の頃から、学校教育の場において、家事・育児等に対する理解や関心を醸成することが重要である。
- ・若い世代は婚活をすることに抵抗があり、社会的に容認される風潮が必要である。
- ・将来設計をする場合、自分が育った環境は大きな影響があると思う。
- ・結婚等のターニングポイントで経済的支援や住宅等地域の情話提供、企業の取り組みに対する支援等のサポートがあると結婚し、その地域への定着が図られると考える。
- ・婚活の前に、友人づくりやサークルづくりといった、友達感覚でつきあいを深める仕組みづくりが必要と考える。

◇妊娠及び出産の支援

- ・不妊治療等の拡充や若年がん患者への生殖機能を温存するための支援が必要と考える。
- ・妊産婦等支援のため、産婦人科医、助産師、行政等関係機関の連携体制の整備が必要である。
- ・妊産婦の不安を軽減するため、妊娠から出産、子育ての各段階における行政等からの支援内容について効果的に情報提供をすることが必要である。
- ・妊娠・出産には職場での健康管理が重要であり、従業員に産休育休、勤務軽減、妊産婦検診の勤務時間中の受診等、労働法制の知識を周知することが必要である。
- ・妊娠した時からの相談体制の充実や、妊娠したが子育てができない人と子どもを授からなかったが子どもを育てたい人のマッチング体制が必要と考える。
- ・男性自身の不妊や、不妊に対する男性への正しい理解の促進が必要である。

◇子育ての支援

- ・子どもを産み育てることの楽しさや幸せを伝えていくと共に、個々の家庭を支援していくことが重要である。
- ・親に遊び方を教えるセミナーや親子が共同で遊べるイベント等多様な遊び支援と一元的・効果的な

情報発信が必要である。

- ・家庭で子育てをする者に対する支援が必要である。
- ・子どもを預けて働くことも多くなる中で、病気のとき等、あらゆる就労環境に対応できる保育環境・保育のあり方を考えることが必要である。
- ・小学校低学年の子どもをサポートする仕組みや遊び場が必要と考える。

◇総合的な支援

- ・子育てを終えた人に対する優遇措置が必要ではないか。
- ・京都に住みたいという人は多いので、空き家情報等を必要とする人に必要とされるタイミングで届けることが必要である。
- ・京都に来たらこんな子育てが出来るといったモデル提示をして積極的に人を呼び込むことが必要である。
- ・少子化対策は府や市町村等、様々な機関が関係するが、一人ひとりがシームレスに支援を受けられることが重要である。

◇少子化に関する教育及び学習の機会の提供並びに雇用環境の整備や府民の気運の醸成に関する施策

- ・高校において、家庭科のキャリア教育で将来を考えたり、乳児とのふれあい体験を実施していることが継続して必要である。
- ・高校生のころに正しい妊娠や出産の知識を身につけることが必要である。
- ・大学や社会人になってから、結婚・子育てを含めた具体的な人生設計を描くことが必要である。
- ・ライフデザイン教育について、大学の教養科目の中で、キャリアを考える中で自分を振り返る面白い科目がつけられるのではないか。
- ・企業において、妊娠・出産等にかかる制度を知りやライフデザインを考えることが必要であり、それを担える社内の人材育成や講師派遣等が必要である。
- ・地域の町内会や子ども会がなくなりつつあるが、子どもが生き生きとして地域ならばそこに住めたい人も増えると考ええる。
- ・地域の中で子どもは育つということをもっと発信していくべきである。
- ・働き方等、経営者に対して取り組んでほしいことをもっと言うべきである。
- ・家庭を持つことのよさを発信していくことが必要である。